［認知症対応型共同生活介護用］

1. 調査報告概要表

作成日　平成21年5月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4770500132
法人名	医療法人おもと会
事業所名	グループホームさくら
所在地	〒901－2226　沖縄県宜野湾市嘉数4－4－10 （電　話）098－898－2280

評価機関名	社会福祉法人　沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1　沖縄県総合福祉センター西棟4階
訪問調査日	平成21年4月14日

【情報提供票より】（平成21年3月15日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　13　年　7　月　26　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤　9人，非常勤　0人，常勤換算　9人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート　造り
	2 階建ての　階　～　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000　円	その他の経費（月額）	光熱費　200/日額　円
敷　金	有（　円）	無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食　円	昼食	円
	夕食　円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円		

（4）利用者の概要（平成21年3月15日現在）

利用者人数		9 名	男性　2 名	女性	7 名
要介護1		0　名	要介護2	2	名
要介護3		2　名	要介護4	4	名
要介護5		1　名	要支援2		名
年齢	平均	92.7 歳	最低　87 歳	最高	97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	大浜第一病院、喜屋武内科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所独自に掲げたモットーである「笑顔」のもと、ゆったりとした時間の流れる落ち着いた雰囲気の事業所である。モットーの「笑顔」は職員と利用者の関係だけにとどまらず、地域との関係作りにも効果を上げている。「職員は私の宝物」という管理者のもと、居室担当制を取り入れたり、定例ミーティングでの勉強会などケアの向上を目指す取り組みや、職員が働きやすい環境作りに努めている。階下の同法人小規模多機能型居宅介護支援事業所と合同で行事を開催したり、隣接する同法人介護老人保健施設との連携など、母体法人の支援体制が強みである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回は、チームでつくる利用者本位の介護計画が改善課題として挙げられていたが、利用者本位の介護計画の作成を目指し、本人・家族の要望や意向をもとに、ミーティングにおいて全職員で検討している。これまでは、介護計画（ケアプラン）の本人及び家族の意向欄にアセスメントや検討された内容を記載されていない部分もあったが、随時見直しの取り組みがなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価は、全職員参加のミーティングでケアの現状を確認しながら、項目一つひとつについて話し合い、皆でその内容を検討しあって作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	2ヶ月に1回、定期的に開催される運営推進会議には、市5ヶ所の自治会の方がメンバーとして参加している。メンバーからは、各自治会の運動会等の行事案内や市行政の独自サービス及び行事等の情報があり、それらの情報は地域との交流の機会として利用者の日々の生活に取り入れている。また、事業所作成の広報誌も配布するなど、事業所からの情報発信の場としても活用している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	利用者の家族は少なくとも2週間に1回以上の面会があり、殆どの家族は利用者との面会のためによく事業所を訪れている。職員は、家族への電話連絡や面会時を、利用者が安心して過ごしていくための情報交換の場と捉え、気軽に意見や要望が話せるよう工夫している。その上で、家族の協力を得ながら日々のケア（施設内での散歩や賛美歌合唱等）に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域の5ヶ所の自治会との連携を図り、当事業所の行事へ地域の方がよく参加している。車椅子利用者や心身状況の重度化に伴い、地域へ出向く機会が制限される状況（バリアフリーでない公共施設への参加は困難）も見られるが、地域の一員としての事業所の取り組みを期待したい。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成13年に開設された当事業所の理念は母体法人の理念を核とし、独自のアンケートによる職員の意見をまとめて作られた。これまでの外部評価や実地指導等において、理念の一つひとつの文章を短くし、誰にでも分かりやすく見直しを図るよう助言されている。	○	理念は地域や利用者の状態及びニーズ、事業所の状況の変化に伴って見直していくことも大切である。地域密着型サービス事業所としての理念を検討し、現状に沿った独自の理念を作りあげることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月定例のミーティング（夜勤者を除く全職員が参加）の中で現在行っているケアについて、理念に基づき再確認するとともに、質向上の取り組みを検討している。理念と並んで、今年のモットーとして「笑顔」を玄関、フロア、廊下等へ掲げ、常に意識しながら取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市の5ヶ所の自治会へ行事案内等の連携がなされており、当事業所の行事へ各自治会の方が参加している。利用者の重度化に伴い、地域の行事等への参加を難しいと感じている状況である。	○	車椅子利用者や身体状況等により、地域に出向く機会が制限される状況（バリアフリーでない施設等）も考えられるが、地域の一員としての事業所の取り組みを期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員参加のミーティングで項目一つひとつを話し合い、確認しながら作成した。また、外部評価を活かしてはじまった事業所独自の広報誌作成は年4回の発行を継続し、利用者や家族、その他関係者へ配布するとともに、役所の窓口、当事業所玄関へ常備し情報提供している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーには市5ヶ所の自治会の方も含め、定期的に開催されている。自治会からは運動会や地域の行事等の情報が、行政職員からは市独自のサービスや行事等の情報が寄せられ、利用者の日々の生活の中に取り入れるようにしている。また、当事業所からも地域や市へ情報を発信する機会としている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、日頃から市の介護長寿課担当職員と行事案内をはじめとする情報交換を行っている。また、当事業所のケアに関する情報提供やサービス内容に関する相談を行う等、質の向上を目指した取り組みや連携を図っている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や病院受診（家族の付き添いが基本）時などの機会および電話等で、利用者の健康状態や小遣いの利用状況等を報告し、話し合っている。主任や居室担当者を中心に、小さなことでも報告するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族は少なくとも2週間に1回以上、面会に訪れている。面会時は、利用者が安心して過ごすためのヒントを家族から伺う機会と捉え、気軽に意見や要望が話せるよう配慮し、家族の協力も得ながら日々のケア（施設内散歩や賛美歌合唱等）に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体法人は認知症対応型事業所として馴染みの職員によるケアを主体とし、利用者の安心安全を優先に考え、開設以来、極力異動がないよう配慮している。やむなく異動になる場合は利用者との関係に配慮するとともに、家族会に参加し紹介するようにしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員に楽しく仕事をしてもらうことをモットーとしており、職員を育てる取り組みとして、事業所独自で毎年テーマを決め、ミーティングの場で研究発表する機会を設定している。また、オムツ外し学会、実務研修等の外部研修への参加や法人内の勉強会、各種委員会への参加など学習の機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまで実績のある当事業所は、新設される同業者の職員研修や施設見学を受け入れ、情報提供を行っている。また、グループホーム連絡会や計画作成会議への参加、他施設見学等の交流を通じて情報交換の機会を設け、サービスの質の向上へ取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当事業所を希望し待機している方で併設の介護老人保健施設に入所されている方の場合、職員が施設へ出向いて利用者と話し合うことで、馴染みの関係を作りながら当事業所の見学を行うなど、本人が納得できるよう支援しながらサービス提供に結び付けている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が、沖縄方言の意味が解らない場合、方言に詳しい利用者から教えてもらっている。また、フロアの窓のカーテンの開閉を本人の仕事として、自ら毎日行っている利用者もおり、個々の「できること」「やりたいこと」を見い出し、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中で居室担当者を中心に、利用者の言葉や表情、しぐさから本人の好み・楽しみ・希望などを把握するようにし、職員全体で確認しあっている。また、家族からの聞き取りや協力を得て、面会時の利用者との散歩や外出、本人の好きな賛美歌を歌う等、利用者の意向に基づいた支援を行っている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画を目指し、本人・家族の要望や意向をもとに、ミーティングにおいて全職員で検討し作成している。これまでは介護計画（ケアプラン）の本人及び家族の意向欄にアセスメントや検討された内容を記載していない部分もあったが、随時確認しながら改善している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	居室担当者にてケアプランチェックを行い、基本的に3カ月ごとに本人、家族の意向を確認しながら見直しを行っている。定例ミーティングでは必ず利用者の状況を確認しており、家族とは面会の機会を捉えて（その他、電話連絡など）話し合うなどして、介護計画を見直している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	盆や正月の外泊を行うなど、本人の要望を介護の中心に据え、家族の要望にもできるかぎり応じている。併設の介護老人保健施設や市内関係機関との連携を活かした、リハビリ・看護面の支援にも努めている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の多くは当事業所の協力医がかかりつけ医となっている。医院が事業所の近隣に位置していることもあり、定期の受診や情報提供など連携がうまく取れている。また、歯科診療も必要に応じて、訪問診療を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族の要望に沿って、個々の対応については確認している。２月には看取りについての勉強会も開催され、事業所としての今後の方針・対応について、母体法人と検討を始めたところである。	○	勉強会の他、当事業所職員として正看護師を採用するなど、看取りの支援体制構築に向けて、準備を進めている。当事業所の今後の取り組みに期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録類は事務室内の鍵付きキャビネットに保管し、事務室も出入りの際は鍵をかけている。入浴を1対1で行ったり、言葉遣いにも注意を払うなど、一人ひとりを大切にした対応を心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の本人の状態・希望を確認しながら支援するよう努めている。家族の面会時間も特に制限なく対応し、利用者と心おきなく過ごしてもらっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンのすぐ近くに食卓があることで、利用者も調理、盛り付けなどを共に楽しんでいる。音楽やテレビも適度に取り入れながら、職員と共に楽しめる雰囲気作りに努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回の入浴を決めてはいるが、本人の希望に沿って、日や時間にこだわらず入浴を支援している。シャワーやバスタブなど、好きな入浴を楽しめるようにしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備の他、洗濯物たたみ、居間のカーテン閉めなどの個々の得意な仕事や塗り絵などの「やりたいこと」ができるよう支援している。また、ひなまつりや運動会など季節の行事を楽しみながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて、敷地内や事業所近辺への散歩、ミニドライブなどに出かけている。家族面会時に家族とともに外出することもある。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はロック式になっているが、天気の良い日や職員が居間にいる（玄関先が見える）ときはできるだけ開放するようにしている。玄関前の道路は併設の介護老人保健施設への車の往来もあるが、カーブミラーを設置し、安全面にも配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練、防災器具点検を行っている。前回の避難訓練では、職員を利用者に見立て、より実際に近い形での訓練となった。備蓄や地域への協力依頼も、母体法人と検討・調整中である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分ともに毎日、チェック表に記録し、摂取状況を把握している。食事メニューは併設介護老人保健施設の栄養士にて作成しているが、利用者の状況に応じて主食や飲み物を変えるなどの工夫を行っている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から居間にかけては窓を大きくとって、自然光を取り入れるとともに外の景色を楽しめる、ゆったりとした空間となっている。居間や廊下の椅子配置もゆったりした空間作りに一役買っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものが持ち込まれたり、写真が飾られるなど、ゆったりとした空間となっている。また、日光が強く入る居室には遮光カーテンを採用している。		